

# 森林に生育する植物の生態学

キーワード [森林生態系, 菌根共生, 生活史, DNA 分析]

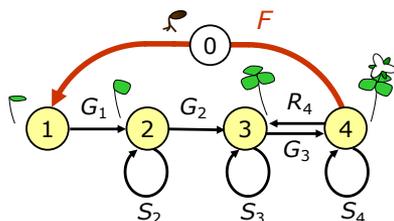
教授 富松 裕

ニホンジカの増加は植物個体群にどのような影響を及ぼしているか？

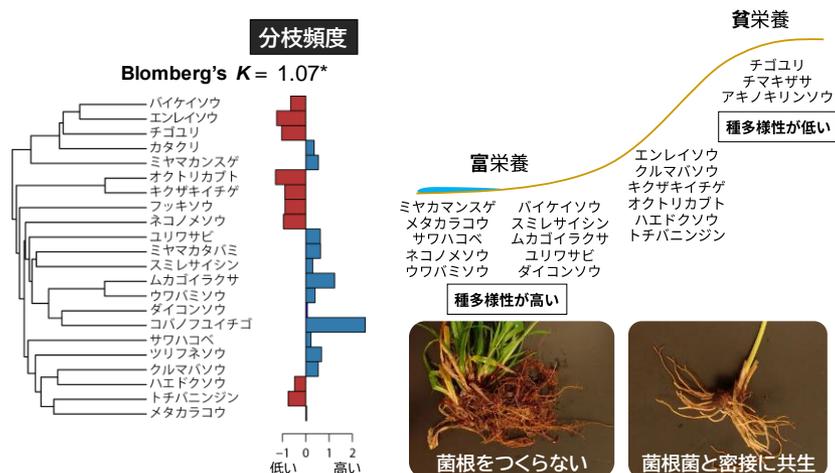
- 死亡率が上昇？
- 新規加入率が低下？
- 生育段階の構成が変化？
- 個体群の持続可能性？



オオバナノエンレイソウ



細根形質の種間変異は、環境勾配に沿った植物の分布を説明できるか？



内容:

一見、毎年同じように見える森林でも、次世代を担う幼植物が少しくつ育っています。ササのように地下茎を伸ばして増える植物は、空間を移動し続けています。また、生育場所による光や土壌環境、撓乱の違いに対して植物は様々な適応を示します。

当研究室では、野外調査を中心に、DNA 分析や GIS 分析、安定同位体分析、顕微鏡による菌根観察など幅広いのアプローチを用いて、植物の生活史や環境応答、微生物との相互作用、個体群と群集の動態を解明するための研究に取り組んでいます。

【これまでの主な研究テーマ】

- 東アジア産タケ類における開花習性とクローン成長様式の新科学的解析
- 夏緑樹林におけるアーバスキュラー菌根共生の実態解明
- アーバスキュラー菌根菌に炭素源を部分的に依存する林床植物の安定同位体分析による探索
- 森林でササがどのように密生するか: クローナル植物の時空間動態
- 林床植物における分布域の決定要因: 包括的理解を目指した実証研究
- 森林の分断化に対する植物個体群や群集の応答

分野: 生物学  
専門: 植物生態学, 生態遺伝学

E-mail: [htomimatsu@sci.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:htomimatsu@sci.kj.yamagata-u.ac.jp)  
HP: <https://tomimatsulab.sakura.ne.jp>

